

2023

3 MAR.

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 73

2▶ 腎臓内科紹介

4▶ 糖尿病・内分泌代謝
内科紹介

6▶ 泌尿器科紹介

8▶ 小児食物アレルギー
外来を開設

9▶ 立川病院がん診療
勉強会

立川病院 だより



腎臓内科

2023年度、腎臓内科は、常勤医4名体制のもと診療を行っております（二木功治、篠塚圭祐、安田格、吉田隆人）。外来ではさらに、五十嵐有医師（健診センター副センター長）協力のもと、地域連携を重視し診療を行っております。

当科では、

- ・ 検診異常などを契機とした腎疾患の拾い上げ、原因診断
 - ・ 高血圧症・電解質異常の原因精査、加療
 - ・ 急性腎障害・慢性腎臓病症例に対する原因精査・加療
 - ・ 末期腎不全患者さんに対する腎代替療法の提示ならびに導入
- など、あらゆる腎疾患を扱い精査加療を行っております。

診断のための腎生検も積極的に実施し、病理診断科とともに腎病理を検討しています。

腎臓内科外来では、透析看護認定看護師を中心として「療法選択外来」を実施し、腎代替療法の療法選択を充実させております。

末期腎不全の治療は大きく透析療法、腎臓移植、保存療法に分けられます。透析療法には血液透析と腹膜透析があります。腎臓移植には生体腎移植と献腎移植があります。血液透析には週3回の通院、腹膜透析は毎日自分でのバッグ交換、腎移植には免疫抑制薬の内服継続など、それぞれの特徴があります。これらは治療法を選択する患者さんのライフスタイルに合わせて、患者さんごとにその選択をすることになります。当院では血液透析ならびに腹膜透析の導入を行っております。

透析用内シャントの作成については血管外科の協力を得て実施、腹膜透析用カテーテル挿入術については泌尿器科の協力を得て実施しています。現在は腎臓内科で、血液透析用内シャントのエコーガイド下経皮的血管拡張術（PTA）を実施しております。また、昨年度より透析用長期留置カテーテル挿入術を実施開始しました。

透析センター

透析センターは、腎臓内科が中心となり、泌尿器科からの協力・連携を得ながら、血液浄化療法を担当、実施しております。多様な疾患に対して血液透析以外の血液浄化療法も扱い、全ての科に必要とされる各種療法、立川病院におけるすべての血液浄化療法・アフエレーシスを実施しています。

当院は日本透析医学会認定施設、ならびに日本腎臓学会研修施設として、医師・看護師・臨床工学技士の教育に積極的に取り組んでおります。

血液透析は患者さんへの生活指導や食事指導、あるいはシャント管理など、透析看護として独特かつ細やかな配慮が必要です。6N病棟（腎臓内科病棟）看護師が透析室看護の担当となり、看護の提供のため能力向上に努めております。

透析センターで実施する血液浄化療法は、医療機器が主役の治療です。MEセン



ター所属の臨床工学技士が総力をあげ、中心となり活動をしております。

新型コロナウイルス感染症流行にあわせて、透析患者さんの新型コロナウイルス感染症罹患症例も、病床の受け入れ可能な範囲で、複数症例を当院で診療しています。東京都からの要請を受け、症例の受け入れを定期的に行っています。該当症例に対して、4S病棟（感染症病棟）陰圧室での出張透析を実施しています。今後も多職種での連携を重視し、組織のレベルアップを目指し、日々の診療に取り組んでまいります。

引き続き地域の先生方におかれましては、当院での入院を検討されている透析患者さん、合併症治療など急を要する患者さんなどおられましたら、ぜひ地域医療連携センターを経由の上、ご相談ください。

腎臓内科外来にご紹介いただきたい症例

かかりつけ医から腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準（作成：日本腎臓学会、監修：日本医師会）

原疾患	蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日) 尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
			30未満	30～299	300以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 その他	尿蛋白定量 (g/日) 尿蛋白/Cr比 (g/gCr)		正常 (-)	軽度蛋白尿 (±)	高度蛋白尿 (+～)
			0.15未満	0.15～0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分/ 1.73m ²)	G1	正常または高値	≥90	血尿+なら紹介、 蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G2	正常または軽度低下	60～89	血尿+なら紹介、 蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G3a	軽度～中等度低下	45～59	40歳未満は紹介、 40歳以上は生活指導・診療継続	紹介
	G3b	中等度～高度低下	30～44	紹介	紹介
	G4	高度低下	15～29	紹介	紹介
	G5	末期腎不全	<15	紹介	紹介

上記以外に、3ヶ月以内に30%以上の腎機能の悪化を認める場合は速やかに紹介。
上記基準ならびに地域の状況等を考慮し、かかりつけ医が紹介を判断し、かかりつけ医と専門医・専門医療機関で逆紹介や併診等の受診形態を検討する。
(日本腎臓学会編 CKDガイドライン2018)

医師紹介

二木 功治 (ふたつぎ こうじ)
腎臓内科部長事務代行・透析センター長
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門
医・指導医
日本腎臓学会 腎臓専門医・指導医
日本透析医学会 透析専門医・指導医

安田 格 (やすだ いたる)
内科医員
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門
医
日本腎臓学会 腎臓専門医
日本透析医学会 透析専門医

篠塚 圭祐 (しのづか けいすけ)
内科医長
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門
医・指導医
日本腎臓学会 腎臓専門医・指導医
日本透析医学会 透析専門医・指導医
腹膜透析医学会 認定医
日本抗加齢医学会 専門医
日本病態栄養学会認定NST研修修了

吉田 隆人 (よしだ りゅうと)
内科医員
五十嵐 有 (いがらし ゆう)
健診センター副センター長
日本内科学会 認定内科医・指導医

糖尿病・内分泌代謝内科

糖尿病・内分泌代謝内科は2022年4月より常勤スタッフが3名に増員となりました。これまで以上に積極的な病診連携に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

診療内容について

●糖尿病

血糖調整・合併症検査・栄養相談などを目的とした入院（教育入院）を積極的に受け入れております（2型糖尿病では13日間、1型糖尿病では12日間のクリニカルパスを使用）。

早期に血糖改善が必要な方、急激に血糖管理が悪化した方、術前血糖管理の必要な方、血糖コントロールに難渋される方などご紹介いただけますと幸いです。

※安定した糖尿病の継続治療については病診連携を通じてかかりつけの先生方へ逆紹介させていただきます。

●内分泌疾患（間脳・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎など）

血液検査、負荷試験、画像診断（エコー、CT、MRI、アイソトープ）などで診断を行っています。

甲状腺はBasedow病、橋本病、亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎、妊娠に伴う一過性の甲状腺機能亢進症（gestational transient hyperthyroidism；GTH）など幅広い診療を行っています。

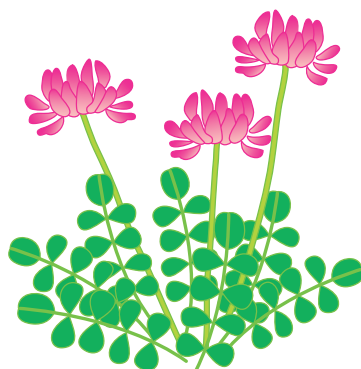
副腎は偶発腫をふくめた腫瘍（原発性アルドステロン症、（サブクリニカルを含む）クッシング症候群、褐色細胞腫）および副腎不全についての精査を行っています。

各内分泌臓器の異常が疑われれば各種負荷試験を行い、低下症なら補充療法を行い亢進症（腫瘍性病変）の場合は手術を考慮し担当科へ相談・紹介しております。

※安定した内分泌疾患の継続治療については病診連携を通じてかかりつけの先生方へ逆紹介させていただきます。

【他科の先生方に御協力をいただいている疾患領域】

- | | |
|------------------|----------------------|
| ☛妊娠糖尿病（産婦人科） | 教育入院、インスリン導入など |
| ☛甲状腺腫瘍（耳鼻科） | 針生検、手術など |
| ☛副腎腫瘍（泌尿器科/放射線科） | 負荷試験、副腎静脈サンプリング、手術など |
| ☛脳下垂体腫瘍（脳神経外科） | 負荷試験、手術など |



医師紹介

矢島 賢 (やじま けん)

日本糖尿病学会 専門医 研修指導医 学術評議員
日本内分泌学会 専門医 内分泌代謝科指導医
日本内科学会 総合内科専門医 指導医
日本医師会 認定産業医
一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 業務執行理事

杉山 和俊 (すぎやま かずとし)

日本糖尿病学会 専門医
日本内分泌学会 専門医
日本内科学会 認定内科医

黒川 安晴 (くろかわ やすはる)

日本内科学会 内科専門研修 (2023年3月で終了予定)

※2016年1月より当院は日本糖尿病学会専門医の認定教育施設となり糖尿病専門医を目指す医師を受け入れ教育を行うことが可能となりました。



【発行社：公益社団法人日本糖尿病協会】



【発行社：公益社団法人日本糖尿病協会】

泌尿器科

泌尿器科は現在常勤医3名で診療を行っておりますが、手術件数の増加に伴い本年4月より常勤医4名に増員となります。それに伴い手術枠を増やし、手術待機日数の短縮に努めます。ダビンチ手術を始め、腹腔鏡下手術、尿路結石手術、排尿障害手術、女性骨盤底手術と成人であれば多岐にわたり当院で実施可能です。地域連携医の皆様の期待にお応えできるよう今後とも精進してまいります。

診療内容について

●ダビンチ手術（ロボット支援腹腔鏡下手術）

現在保険診療で当院施行可能なロボット支援手術は前立腺がん（前立腺全摘術／RARP）、腎臓がん（腎部分切除術／RAPN）、膀胱脱（仙骨脛固定術／RSC）の3術式になります。従来の開腹手術と比較すれば、拡大された良好な視野で解剖を理解し、ロボットアームは緻密な操作が可能です。傷口は小さく低侵襲であることから術後の回復も早く、ほとんどの患者さんが8日間での退院となります。

●腹腔鏡下手術

腎臓全摘除手術、腎尿管全摘除術、副腎摘除手術を中心に腹腔鏡下手術を行っています。ダビンチ手術と同じく傷口は小さく、術後の回復が早いことが特徴です。



●尿路結石手術

Cyber Ho60を始め二台のホルミウムYAGレーザーが稼働し、最新のオリンパス軟性尿管鏡システム、細径腎盂鏡を用いて多くの尿路結石（腎結石、尿管結石、膀胱尿道結石）に対し経尿道的碎石術／TUL、経皮的碎石術／PNL手術を行っております。体外衝撃波結石破砕術／ESWLはドルニエDelta IIを使用しております。

●排尿障害手術

前立腺肥大症に対する経尿道的切除手術はHoLEP、TUEB、TURiSPのいずれも施行可能です。

過活動膀胱においては薬物療法による効果不十分な難治性患者さんに対してボツリヌス療法、仙骨神経刺激療法／SNMを行っています。

●女性骨盤底手術

膀胱脱に対してはロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定術と経膈メッシュ（TVM）手術が選択可能です。

腹圧性尿失禁に対してはTOT手術、TVT手術が施行可能です。子宮脱や直腸瘤に関しては婦人科や外科と連携し治療を進めていきます。

医師紹介

明瀬 祐史（あきせ ゆうし）

日本泌尿器科学会 専門医

慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室 講師（非常勤）

宮崎 保匡（みやざき やすまさ）

日本泌尿器科学会 専門医・指導医

日本がん治療医認定医機構 がん治療認定医

日本泌尿器内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医

ロボット支援手術認定医（da Vinci S・Si・X・Xi）

日本泌尿器内視鏡学会 ロボット支援手術プロクター認定医（手術指導医 膀胱・前立腺、副腎・腎（尿管）、仙骨脛固定術）

香久山 裕史（かぐやま ひろふみ）

日本泌尿器科学会 専門医



左から、宮崎、明瀬、香久山

2023年3月8日より、小児食物アレルギー 外来を開設します。

食物アレルギーとは、「食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象」であり、IgE依存性の食物アレルギーは、乳児アトピー性皮膚炎に合併して認められる食物アレルギー、即時型症状、食物依存性運動誘発アナフィラキシー（FDEIA）、口腔アレルギー症候群（OAS）に分類されま

す。
即時型食物アレルギーの診断には、詳細な問診、特異的IgE抗体検査、皮膚プリックテストにより原因食物を特定できる場合と原因食物の特定が困難であるため食物経口負荷試験を必要とする場合があります。

この外来では、必要に応じて食物経口負荷試験による診断を行い、食物除去を最小限にできるようにします。食物経口負荷試験は日帰り入院で実施しますので、医療スタッフの観察下で安全に実施可能です。アナフィラキシーを起こす可能性がある場合には、アドレナリン自己注射薬（エピペン®）を処方します。また、除去食が必要な場合でも、安全な範囲で少しずつ食べながら除去を解除していく方法を選択することが可能です。

重篤なアナフィラキシーの既往がある、食事指導や食物経口負荷試験が必要な患者さんを是非ご紹介ください。

外来日：毎月第2水曜日（完全予約制）

担当医：梶田 直樹医師

東京都立小児総合医療センター アレルギー科医員

日本アレルギー学会専門医

受診のお問い合わせ、予約は地域医療連携センター、小児科外来までお願いいたします。
電話番号 042-523-3131（代表）



立川病院がん診療勉強会

リンパ浮腫の診断・ケア・治療

開催日時：2023年3月23日（木） 19：00～20：00

開催方法：オンライン開催（Webex使用）

対 象：医療従事者

1. 「リンパ浮腫の病態と診断」

講師：立川病院 外科・緩和ケア科 秋山芳伸医師

2. 「リンパ浮腫のケア」

講師：立川病院 看護部 リンパ浮腫セラピスト 小林千恵、清水有花、伊東和美

3. 「リンパ浮腫に対する手術療法」

講師：立川病院 形成外科 濱田茉莉子医師

がん治療中・治療後のリンパ浮腫は、ボディイメージの変化だけでなく、生活の質の低下をきたすことがあります。

今回は、立川病院が「リンパ浮腫外来」にて行っているリンパ浮腫の診断、ケア、治療についてご紹介いたします。

小中学校・高校におけるがん教育

開催日時：2023年3月25日（土） 15：00～16：00

開催方法：オンライン開催（Webex使用）



対 象：どなたでも参加可

「がん教育について（目的・内容・アンケート結果等）」

講師：立川病院 外科・緩和ケア科 秋山芳伸医師

「がん教育」は国が策定したがん対策推進基本計画に基づき、がんについて正しく理解することや健康と命の大切さについて主体的に考えることを目的としています。立川病院では、立川市教育委員会と協働し、2017年から生徒の皆様を対象に実施しています。

事前申し込み不要です。下記の要領で接続ください。

パソコンでご参加の方	スマートフォンでご参加の方
対応ブラウザ（最新版の Google Chrome、Microsoft Edge、Apple Safari）から下記URLにアクセス https://signin.webex.com/join 「リンパ浮腫の病態と診断」 ミーティング番号（アクセスコード）： 2515 356 2775 ミーティングパスワード：zuNaDJx2Q55	※アプリが必要となりますので事前に「Webex Meeting」をダウンロードして、下記の二次元バーコードよりご参加ください。
「小中学校・高校におけるがん教育」 ミーティング番号（アクセスコード）： 2510 951 1387 ミーティングパスワード：9bPRX8BBax7 を入力してご参加ください。	「小中学校・高校におけるがん教育」  
注意事項：必ずWi-Fi等の定額ネットワークに接続してご参加ください。高額な通信費が請求されます。	

お問い合わせ先：立川病院地域医療連携センター（TEL：042-523-3131）



ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和5年3月1日（年6回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160